

1. 2020 年度事業目標

2017 年度より「日本文化の発信拠点」としての研究を実践してきたが、2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、地域への発信活動が困難となっている。そこで今年度は、主たる研究目標を今後発展させていくために、本校の児童生徒を対象に、下記の 3 項目についてデジタル図書の研究を行うこととする。

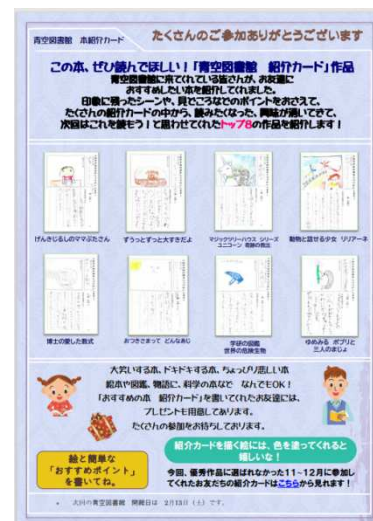
- (1) デジタル図書の有効性の確認
- (2) デジタル図書の選定
- (3) デジタル図書の貸し出し方法の検討と実践

2. 2020 年度の教育活動と研究の背景

ロサンゼルス郡における新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、3 月 19 日に外出禁止令が発令され、西大和学園カリフォルニア校(NAC)は臨時休業となったが、4 月 3 日には平日校小中学部にて主要 5 教科を Google Classroom で指導し、ZOOM を用いて少人数で会話力を育成する指導を行うオンライン学習(Distance Learning, DL)を立ち上げた。4 月 13 日より日本各地に一時帰国している児童生徒も含めた DL による 1 学期を開始し、中学部においては ZOOM で監督することにより、中間期末考査を実施し、授業日数 72 日相当の DL 指導にて 1 学期を 7 月 23 日に終業した。2 学期にはプログラミング教育や委員会活動、運動会などの学校行事もオンラインで計画し、基礎学力を育成する枠を超えた教育活動を実施できる体制を整えたが、3 学期に入った現在も臨時休業が続いている。

このような状況下、DL 開始後 2 週間ごとにアンケートを実施したが、第 1 回目のアンケートより、図書の貸し出しを希望する声があがっていた。5 月 29 日には [全国学校図書協議会から学校図書館の活動ガイドライン](#)が、7 月 29 日にはロサンゼルス郡公衆保健局より、[野外を活用した図書貸し出しのガイドライン](#)が発行されたのをうけ、10 月 17 日より、平日校と本校に来校できる範囲の補習校を対象に 2019 年度までの研究で購入した図書を「青空図書館」として野外での貸し出しを再開させた。(研究資料 8_1・8_2)しかしながら、この形式では月 1 回の開館しかできず、本校に来校できない補習校の児童生徒が図書館を活用できないという課題があげられた。

一方、ロサンゼルス郡の感染者数はカリフォルニア州内で最多の状態が続く、州知事から、DL カリキュラムを改善し、高い思考力を育成する指導を行うよう、また第 2 言語で学習している児童生徒の支援を強化するよう、8 月下旬に踏み込んだ指示が発令されている。このような現地の要請にこたえるためにも、本研究を再受託するにあたっては、デジタル図書を活用して、高い思考力を育成する活動、バイリンガル力を生かした活動、遠隔地に所在する補習校の図書館有効活用を考慮に入れて、2020 年度の事業を実践することとした。(文責：小倉)



青空図書館紹介カード (研究資料 8_2)

3. デジタル図書の有効性の確認

デジタル図書の有効性を検証するために、本年度実施した活動は下記の通りである。

活動 1 デジタル読書音声アプリを活用し、読書意欲を高める活動

(文責：洞口)

(1) 活動概要

当初の予定では、在外教育施設が採択している教科書の推薦図書を、デジタル図書で活用する構想で研究を始めたが、2 年生を対象とした日本語の絵本や児童書の多くは、未だデジタル化されておらず、デジタル図書を使って、日本語の読書の幅を広げるのは困難であり、有効性を検証するに至らなかった。

そこで、研究対象としてアメリカ版 Kindle と Audible を活用することにした。これらは、アーノルドローベル氏をはじめとする、著名の児童文学作家の作品が数多くあり、Kindle で読書が可能なものは、その殆どが Audible でも聞くことができるため、読書を敬遠しがちな児童や、英語を習得しはじめたばかりの児童には、有効だと考えた。

指導単元としては2年生国語『お手紙』を扱ったが、この単元は、音読を楽しみながら、登場人物の言動を想像力豊かに読みとり、さらに、最後に音読劇をするという単元である。『お手紙』はロサンゼルス出身のアーノルドローベル氏の作品であり、原作は英語で書かれている絵本であるため共通点も多く、指導当初より児童は興味を示していた。そこで、日本語版『お手紙』の音読劇を発展させて英語版『The Letter』の音読劇に取り組むことで、音声アプリを活用し読書意欲を高める活動を実践し、今後もより多くのバイリンガル絵本に触れられることを研究目的とした。

デジタル読書音声アプリとしては正しく豊かな英語を提示できる Audible を活用した。この活動を通して、多くの図書に出会い、豊かな表現力を身につけられるように支援する。

【活動の流れ】

- ・『Your Name』を読み、日本語の絵本と英語の本をくらべて、その違いに気づく。
- ・『お手紙』の原作『The Letter』を Kindle で読み、Audible の音声を導入することで表現の幅の広さに気づく。
- ・2 年国語科『お話のさくしゃになろう』で作った自分のお話を一部英訳してみることで、バイリンガル表現の楽しさを知る。
- ・『お手紙・The Letter』という題名で、日本語と英語を織り交ぜた音読劇にすることを決める。バイリンガル劇にすることで、現地で日本語を知らない人にも楽しめる劇を目指す。
- ・小中学部全校児童生徒に向け、『お手紙・The Letter』の発表会を ZOOM で行う。

(2)有効性の検証方法

検証方法として、2 年生にはアンケートを取る形式では正確なデータを収集しにくいと考え、授業の様子をビデオに収録し、授業後に子どもの気づきを分析した。（研究資料 8_3）尚、下記はビデオから抜粋した児童の言葉である。また、児童の言語力と学習傾向を理解するために、保護者を対象にアンケート調査を行った。（7 アンケート活動 1）

【保護者アンケート内容】

- ①普段、本を読むときは、日本語のものを 읽습니다か？英語のものを 읽습니다か？
- ②普段、紙媒体の図書を読んでいますか？電子による図書を読んでいますか？
- ③ご家庭で、読書アプリ Kindle を利用したことはありますか？また、今後も使ってみようと思いますか？
- ④ご家庭で、読書音声アプリ Audible を利用したことはありますか？また、今後も使ってみようと思いますか？

(3)考察

本学級児童の家庭では、約 1 割の児童が英語を 80～100%家庭で使用し、約 9 割の児童が日本語を 100%家庭で使用している。右に抜粋したように、家庭での使用言語 80%が日本語の児童は、Audible を聞く前は、バイリンガル本に対して消極的な意見が目立った。しかし、Audible を聞いた後は、前向きな意見が増えた。これは、Audible によって、登場人物の言動がより鮮明に感じられ、学習言語にバリアがある児童でも読む活動を聞く活動に変えることができたからだと考える。

また、音楽が流れる機能の効果で、紙媒体の書籍よりも、多様な音声効果を得られることができ、情緒に働きかけができたと言える。ネイティブスピーカーによる読み聞かせを活用したことで、言語によるリズムの違いを明確に受け取れることもできたと言える。

次に、音声を活用することで登場人物の話し方の特徴や個性もとらえることが

できていた。例えば Audible の音声スピードを変える機能を用いて、登場人物のキャラクターに合わせスピードを変えて指導したところ、児童たちは大変興味を持ち、「もっと読みたい！ほかのお話も聞きたい！」と学習意欲を高めていった。また、聞き取ることのできない箇所については、スピードを自分で調整しながら、有効的に学習していた。

授業記録ビデオから抜粋した児童の言葉

Audible を聞く前（家庭での使用言語 80%）（研究資料 8_3）

- ・英語の本だと読めないかも
- ・音読発表なんてできない！

Audible を聞いた後

- ・がまくんのセリフが悲しいように言っていて面白かった。
- ・楽しい時は楽しい音楽がなっていて、楽しかった。
- ・日本語と全然言い方が違う。
- ・かたつむりくんがノロノロしてて面白かった。
- ・私が読むとしたら、もっと違う読み方（発音）だと思っていた。
- ・Toad! という発音が、思っていたのと違った。
- ・本だとページをめくらないといけないけど、Kindle だと、スライドするだけで、次のページにいけるから、楽。
- ・このタブレット、持って帰りたい！
- ・ちょっと目がいたい。
- ・がまくんとかえらくんの言い方が分かりやすかった。
- ・どっちのキャラクターにもアクセントあって、だれがなんのセリフをいっているのか、わかりやすかった。
- ・このセリフを言ってみよう！
- ・かたつむりくんの言い方がおそいから、わたしが（かんそうの紙を）書くのも遅くなっちゃう！

Kindle については、紙の本よりもスムーズにページをすすめたり、戻ったりできる機能に興味を持ち、「このタブレットで他のお話も読んでみたい!」と、読書意欲を高めていた。但し、「目が痛む」との声も聞かれ、使用頻度や時間によっては、健康面への考慮が必要である。

最後に、保護者のアンケートからは、音声アプリの利便性や日本語・英語を正しく表現豊かに読み聞かせできる効用から、音声アプリを活用した図書を教育に導入することに賛同していることが読み取れた。但し、Kindle 図書のようなデジタル図書に関しては、視力低下の懸念や選書がしにくいなど、興味づけが難しい理由から、学校教育への導入に積極的とは取れない意見も上がっていた。(7 アンケート活動 1)



活動 1 授業後の振り返り

活動 2 デジタル図書の検索機能を活用し、多様な日本語表現と豊かな語彙を活用した詩を発信する (文責：大濱)

(1) 活動概要

4 年生国語「自分だけの詩集をつくろう」は、自分でテーマを決め、それに合う詩を選定して詩集を作り、さらに、そのテーマに沿って子どもたち自身で詩を作成するという単元である。そこで、様々な図書に出会い、より多くの書物に触れられるよう、デジタル図書を活用する。デジタル図書であれば、「キーワード検索」でテーマに関連する図書を簡単に探すことができるため、テーマに合う図書により広く触れたり、図書を絞りこむことで自らの考えを深めたりすることが可能だと考えた。さらに、それらの図書を読み比べることを通して、幅広く読書に親しみ、より多くの文章表現に出会い、「高い思考力を育成する活動」へと発展することを期待する。この活動を通して、様々な文章表現方法を身につけ、表現力を豊かにし、子どもたち自身で詩を作成するときにも活用できるように支援する。

【活動の流れ】

- ・「自分だけの詩集」テーマ決め
- ・テーマに関連する図書を調べる (デジタル図書の活用) ・
- ・調べた図書を読む (毎週、課題図書としてデジタル図書の活用を図る)
- ・読んだ図書の中から、テーマに合った文章表現を書き留める
- ・書き留めたものを参考にしながら自分自身の詩を作成する
- ・クラス全員で 1 つの詩を作成する
- ・詩の発表会

(2) 有効性の検証方法

本来は「紙媒体の図書」と「デジタル図書」の 2 つに分けて活動を行い、どれだけ表現方法に違いが生まれ、どちらがより表現に広がりが見られるかを検証したかったが、今年度は新型コロナウイルス感染の影響により、紙媒体の図書活用が十分にできず、比較分析までには至っていない。そのため、子どもたちに下記項目のアンケートをとることで、有効性の検証を行った。(7 アンケート活動 2)

【アンケート内容】

- ①～④は「とても思う・思う・思わない/よくできた・できた・できなかった」の 3 段階で回答・⑤～⑧は自由記述
- ①デジタル図書を活用して、より多くの図書を読むことができたと思いますか。
 - ②デジタル図書を活用して、より多くの文章表現に触れることができたと思いますか。
 - ③デジタル図書のほうが、図書館 (図書室) と比べて、たくさんの図書にふれることができたと思いますか。
 - ④デジタル図書のキーワード検索では、テーマに合う図書を見つけることができましたか。
 - ⑤どのようなキーワードで検索して図書を探しましたか。
 - ⑥どのような新しい表現を図書からみつけましたか。
 - ⑦自分の詩のどこに新しい表現を用いることができたか。
 - ⑧デジタル図書を使ってよかったと思うことを教えてください。

(3)考察

デジタル図書では、キーワード検索から手軽に図書を探すことができたため、子どもたちは、積極的に図書を活用することができた。本単元「詩集をつくろう」の学習で、従来通りの方法にて図書館や図書室で本を活用する場合、「詩」や「詩集」のコーナーから図書を探すことになり、詩の本のみを調べていたであろう。しかし、デジタル図書では、例えば「笑顔になれる詩を集めて詩集を作りたい」という自己テーマに対し、「笑顔」「元気」「楽しい」などの関連するキーワードで図書を検索することができた。そのため、詩集だけでなく、様々な図書に出会い、その中から自分の心に残った表現方法を集めていくという活動を活発に行うことができた。これは、事後のアンケート結果からも明らかになったように、デジタル図書の活動を通して、たくさんの知識や情報を得ることに役立ち、文章表現に触れる機会を増やすことにつながったと考える。

また、「関連する言葉集めに役立ち、はじめて韻を踏んだ詩をつくることができた」と、積極的に活用できた児童もいた。実際に、詩を書く活動になった時には、普段は文章を書くのを苦手とする児童でも、スムーズに取りかかることができ、何を書いたらいいかと迷う姿は見られなかった。これは、様々な図書に触れて語彙が増えていることが自信につながり「書く」ということに抵抗がなくなっていたからであろう。ただし、キーワード検索では、図書のタイトルが抽出されるだけなので、なかなか自分のテーマに合った図書が見つけれられない、詩に生かせる表現方法を見つけるのは難しいという印象をもった児童もいたことは事実である。

最後に、クラス全員で作った詩の中には、新しく出会った文章表現がたくさん使われており、さらに、それを活用しながら、自分たち自身での文章表現も組み合わせることで詩を作成することができた。（研究資料 8_4）以上のことから、デジタル図書の検索機能を活用することにより、詩の表現に広がりや深まった活動になったと考える。

活動3 デジタル読書アプリを活用し「読みの引っかかり」を共有することで多角的に読みを深める活動（文責：杉本）

(1)活動概要

① 活動と比較検証

中学部第2学年の国語科単元「読んで問う」において本研究を実践した。本単元において、星新一のショートショート『気まぐれロボット』『ボッコちゃん』と『ゼブラ』を題材とし、初読の感想の共有、問いを立て考察、発表し共有するという活動を行った。星新一のショートショートの学習においてデジタル図書を活用し、デジタル図書を活用しないで学習した『ゼブラ』と比較することで、読みを共有する際に、各生徒の視点の広がりに変化がみられたかどうかを検証した。この報告書では、前者のデジタル図書を活用した活動について記し、デジタル図書を活用しないで学習した『ゼブラ』の比較検証については、参考資料にまとめている。（研究資料 8_5・8_6・8_7）

② デジタル図書を活用した活動

デジタル図書アプリ kindle を用いることにより、クラスメイトと問いや意見を交流することで多角的に読みを進め、読みの視点を広げる活動を行った。生徒8人を、2グループに分け、『ボッコちゃん』と『気まぐれロボット』のどちらか1つを kindle にダウンロードしたタブレット端末（RCA Voyager III 7）を貸し出した。kindle のアカウントは一度に6デバイスまで共有できるため、グループ内では共通したアカウントを使用した。

【活動の流れ】

1. グループそれぞれに指定された短編集を読み、話し合って作品を三つ選ぶ。
2. 自分の立てた問いの記述部分に kindle のマーカー機能を用いてそれぞれ指定された色でマーカーする。また、メモ機能を用いてどのようなことについて気になったのか打ち込む。
3. 打ち込んだ問いに対してグループ内でコメントを追加し合い、それをもとに問いの答えを導く話し合いを行う。
4. 話し合いの結果と過程を発表し、発表を聞いた生徒が感想や意見を述べる。

(2)有効性の検証方法

有効性の検証方法として、生徒の発表や発言の内容から「読みを深める」段階の流れや深まりについて検証した。つまり、タブレット端末を用いてリアルタイムで意見を交換し、話し合いを行うことで、クラスメイトの意見を受容できるかどうかを、以下二点の観点に基づき検証した。尚、本検証を行った授業のようすは「8_9 研究資料」に写真とビデオでまとめているので参照されたい。

観点1. タブレット端末を用いて話し合ったときクラスメイトの意見を踏まえた議論ができているか。

観点2. タブレット端末を用いて話し合ったときクラスメイトの意見を自分の意見に受容できているか。

(3) 考察

本実践では、多角的に読みを深めるためにタブレット端末と kindle を活用した。それにより、新型コロナウイルスの影響で、在宅によるオンライン学習状況下であっても、話し合いを進め、クラスメイトの読みの視点を反映させながら「自分たち」の読みを形成することができることが明らかとなった。通常授業に戻り、教室内でも同様にタブレット端末を活用することで、話し合いを促進させることができると考えられる。今後は、生徒自身が自分の読みの変容・過程を見ることができるよう、端末やアプリの機能を今回以上に使いこなし、授業の最初から最後まで一貫してデバイスを使用できるように計画できるとよい。

① 「読みを深める」流れ

デジタル図書アプリ「メモ機能」を活用した「個の読み」

題材「殺し屋ですよ」『ボッコちゃん』

- ・ 看護師ならどうして殺し屋をする必要があるのだろうか(生徒 D)
- ・ 何か重大な秘密が…とも思ったけど単純に儲けるためでは(生徒 E)

「個の読み」をデジタル共有しながら発展させた「話し合い」

- ・ お金を儲けるためだと思っていたけど、病院自体がグルなんじゃないか家族にショックを与えるのと利益にショックなんじゃないか。(生徒 E)
- ・ 女が完全に金儲けのためだと思っていたけど、生徒 B さんの意見のように考えると、「看護婦の信頼が厚い」というのが気になるようになる。だから、「応えてくれる」というのは、みんなには言っていないのかなって思って、信頼が厚いからその人だけに言っているのかな?(生徒 D)
- ・ 病院全体が悪いものと仮定したうえで、この医師たちの信頼も厚いと読むと、この看護婦はちゃんと殺し屋をしてくれるから信頼が厚いととらえられる。(生徒 E)

「殺し屋ですよ」『ボッコちゃん』の読みの発表

僕たちが立てた問いは、なんで看護婦なのに殺し屋をする必要があるのかというので、一つはお金が欲しかった。ほかに気になったところは、病院全体もブラック(注：グルの意)で看護婦も一員なのではないかと思いました。「こんなことは決して本人や家族には言うなよ」という一文、家族というのはおかしいかと思いました。「ショックを与えることになる」という一文の主語が分からないけど、家族や本人にショックを与えるのか、病院の利益がなくなってこちらがショックを与えられるからという意見が出てきました。(生徒 C)

② 「読みを深める」事例

下記の事例 1・2 に示した「読みを深める」話し合い活動を通して、クラスメイトの意見を踏まえた議論ができ、クラスメイトの意見を自分の意見に受容できていることがわかる。

事例 1 のやり取りの中では、生徒 D と生徒 E は、お互いの意見を受容し合い、影響させながら読みの確立を行うことができ、このやりとりがグループ全体で一つの読みとりを形成することに至り、生徒 C の発表につながったことがわかる。

事例 1 「殺し屋ですよ」『ボッコちゃん』の読みの深まり

- ・ 生徒 E はメモに書いた「何か重大な秘密が…」というところから、病院がグルであるという読みを「家族」と「ショック」をキーワードにして展開している。
- ・ 生徒 D は、生徒 E の読みを理解した上で、補強するようにそのあとの一文を論拠として述べた。
- ・ それを受け、生徒 E は再度咀嚼し、読みの根拠として受容した。

事例 2 では『薬のききめ』『きまぐれロボット』を読んだ際、「R 氏は男のことを覚えていたのか」という問いを立てたが、グループ内で読みが二つに分かれた。その中でも相手の読みを受容しながら、新しい視点を見出して自分の論を強めたことがわかる。肯定派の生徒 F と G を中心に、本文に即して次々と問いが重ねられた。読みが分裂したことで、自分の読みの信憑性を高めるために相手の読みが指摘した部分から読みが派生し、結果として多角的に読むことができていた。

事例 2 「薬のききめ」「きまぐれロボット」の読みの深まり肯定派(生徒 F・G) 否定派(生徒 H・I)

- ・ 生徒 F さんが立てた問いで、なんで 10 歳のころを思い出すことにしたんだろうという問いは、私たちの意見を強めると思う。(生徒 G)
- ・ でも、いじめられたことを R 氏は覚えていたが、男のことは覚えていなかったと思う。(生徒 H、I)
- ・ 最後の R 氏の言葉で、「こんなやつとは二度と付き合うまい」と言っているから(生徒 I)
- ・ 男かもしれないとは思っているけど、最初は確信していないと思う(生徒 F)
- ・ 気づいた派の人は、いつ気づいたと思う?(教員)
- ・ すぐ薬を飲もうとしたところから気づいたんじゃない? すぐ確かめたかったから!(生徒 G)
- ・ 「うむ、素晴らしい効き目だ」の前には気づいているんじゃない? 冷静過ぎない?(生徒 F)
- ・ 生徒 I さんが言っていたいじめられたことと男が結びついていないのはあるかもしれないから…(生徒 F)
- ・ 薬は R 氏のために作られたのかな?(生徒 G)
- ・ でもなんでわざわざ昔の記憶を思い出せるものをいじめていた人に渡したのかな?(生徒 F)

③ デジタル図書の有効性

タブレットに **kindle** アプリをインストールしてデジタル図書を活用する利点として、一覧性、即時性、アカウント共有によるコントロールのしやすさが挙げられる。

一覧性とは、メモ機能を用いると、打ち込んだメモだけを抽出して見ることができるため、話し合いをまとめる段階で、その画面を開きながらメモ一覧を参照しながら話し合いを進めることができる利点である。

即時性とは、マーカー機能やメモ機能を即時に反映することができる利点である。生徒は頻繁にクラスメイトが入力するマーカーやメモを同期し、打ち込まれた意見を本文上に反映させて話し合いに生かし、生徒自身が考えたこともすぐに共有することができていた。

最後に、アカウント共有によるコントロールのしやすさが挙げられる。アカウントが共有されているため、教員がコメントの追加や、途中から書籍を追加購入して反映することができる。紙媒体による図書に比べて購入できる書籍の幅が広く、すぐに購入・反映することができる利点がある。

③ デジタル図書活用時の検討点

kindle のおすすめ機能により、多岐にわたる本が購買の候補として、「**kindle** ストアの新刊」「読書履歴に基づくおすすめ」「類似タイトルのおすすめ」として表示される。この「おすすめ図書」は検索履歴にも関連するため、授業とは関係ないキーワードを検索するとそれに関連した書籍がおすすめとして表示される。アカウントを共有しているため、一つのタブレット端末で検索したり商品を見たりすると、ほかの端末でも表示される。今回の実践では、事前指導を行い、タブレット使用時の情報倫理に関する校内規定を発行し、授業とは関係ない書籍が表示されることはなかったが、**kindle** を使用する場合は以上を念頭に置いて指導・支援を行う必要がある。

また、**kindle** の難点として、メモ機能を使用して書いた文章が消えたり、抜け落ちたり、同期できなかつたりすることがある。原因は不明であるが、オンライン学習中の実践であったため、インターネットが不安定な家庭の生徒に頻発しており、インターネット接続状況と関連したトラブルだったと予想される。

上記のタブレットや **kindle** を活用した実践の利点と検討点については、生徒の感想を記した資料を参照されたい。
(研究資料 8_8)

活動 4 補習校児童・生徒の読書傾向の調査及び西大和学園デジタル図書館利用の分析

(文責：田嶋)

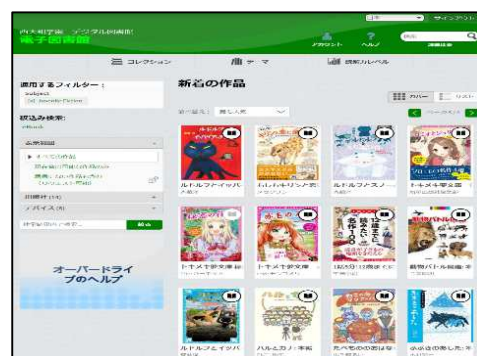
(1) 活動概要

補習校の保護者を対象に 2 回のアンケート（研究資料 8_10）を実施し、児童・生徒のデジタル書籍を含む読書傾向や、西大和学園デジタル図書館への希望等の調査し、加えて西大和学園デジタル図書館の利用状況のデータ分析を行った。

第 1 回アンケートでは、児童・生徒が読書する書籍数や時間、利用する媒体、図書館利用の頻度、電子図書サービスの利用の有無とサービスに対する支払い可能な金額、そして西大和学園デジタル図書館の利用希望とその理由について調査した。

第 2 回アンケートでは、読書をする曜日や時期を調査し、実際に西大和学園デジタル図書館を利用した児童・生徒の読書量の変化と今後の利用継続希望を調査した。デジタル図書館を利用しなかった児童・生徒には利用しなかった理由と今後の利用予定について調査した。また、全児童・生徒に今後西大和学園デジタル図書館に希望する書籍のジャンルや対象年齢層、具体的な著者名・タイトルについても調査した。

上記アンケート以外に、西大和学園デジタル図書館の開館後約 1 ヶ月半経った時点での利用者数や貸出数の推移、貸出ジャンルの傾向やタイトル等を、デジタル図書館サイトのデータをもとに調査し、分析した。



西大和学園カリフォルニア校デジタル図書館

(2) 有効性の検証方法

① 第 1 回アンケート「デジタル図書館開設前の調査・分析」

期間－11 月 21 日～11 月 30 日 方法－Google フォームを作成・配信後データを分析

② 第 2 回アンケート「デジタル図書館開設後約 1 ヶ月後の調査・分析」

期間－1 月 16 日～1 月 25 日 方法－Google フォームを作成・配信後データを分析

③ 「西大和学園デジタル図書館の利用データの調査・分析」

期間－12 月 18 日（デジタル図書館開館日）～1 月 31 日（本報告書作成前まで）

方法－西大和学園デジタル図書館運営会社（Over Drive）のサイト（Market Place）よりデータの抽出及び分析

(3) 考察

① 第1回アンケート「デジタル図書館開設前の調査・分析」

補習校の児童・生徒が普段利用する書籍媒体はデジタルに比べ紙の方が多いが、回答者の6割以上の児童・生徒がデジタル図書サービスを利用したことがあるという結果を得られた。これは、家庭で様々なデジタル図書サイトやアプリを利用したり、現地校でも推奨されている英語のデジタル図書サイトやアプリが利用されたりしているためだと考えられる。また、公共・学校の図書館利用の頻度がコロナ前とコロナ後で大きく差があった点から、実際に図書を借りることができない状況下であったと考えられ、デジタル図書サービスの需要が増えた可能性がある。

デジタル図書サービスの利用に関しては、9割以上の保護者が児童・生徒に利用させたいと考えているが、コロナの影響で現地校も補習校もオンライン授業となり、これ以上スクリーンタイムを伸ばしたくないという保護者の意見も見られた。

デジタル図書館利用希望理由の自由記述回答からは、「日本語の図書に触れさせたいから」「様々な図書を読ませたいから」に次ぎ、「デジタル図書館の利便性がよいから」を挙げている声が多く、デジタル図書への有効性が示唆された。（研究資料 8_11）

デジタル図書サービスの利用料として、保護者の半数以上が300円以上の支払いを可能としているが、無料であることを条件にしている保護者も4割弱いるため、学内にデジタル図書サービスを導入する際に費用が発生する場合は、留意する必要があるだろう。

② 第2回アンケート「デジタル図書館開設後約1ヵ月後の調査・分析」

補習校の児童・生徒は、図書を読む曜日や時期が日本語の図書と英語の図書で違うことが分かった。現地校のある平日に英語の図書、長期休暇や補習校のある週末に日本語の図書を読むなど、生活の流れに合わせて図書を選んでいることがうかがえる。また、西大和学園デジタル図書館を利用した児童・生徒のうち、約6割の児童・生徒の日本語の読書量が以前に比べて増加しており、今後も継続利用を希望する保護者の割合は約95%という結果から、デジタル図書館に対する高い満足度がうかがえた。

一方、利用開始から約1ヵ月後の時点で、回答者の半数以上がデジタル図書館を未だ利用していなかった。児童・生徒の読書時間が取れないことが第一の理由であったが、第二に興味を示さないという理由があげられていることから、児童・生徒にとって興味関心が高い書籍を収集し、効果的に紹介していく必要がある。本調査にて希望する図書のジャンルや具体的な著者名・タイトルも調査しているため、その結果も役立てていきたい。（研究資料 8_12・13）

また、デジタル図書館ならではのオーディブル機能（読み聞かせ機能）の書籍を加えることで、図書を自分自身で読むことが困難な児童・生徒の利用推進につながるのではないかと考える。

③ 「西大和学園デジタル図書館の利用者データの調査・分析」

利用者数の推移から、土日の利用が多いことが分かった。これは上記②の調査の日本語の図書の利用曜日・時期と同様の結果となった。開館初日から徐々に利用者数・貸出数が下がっているが、期間全体を通じて平均すると24冊/日に借りられており、10人前後のユーザーが毎日利用していることから、一定のコアユーザーがいることが分かる。また、図書館の図書を紹介する案内を出した日には利用者数・貸出数ともに増えているため、定期的に図書紹介文や図書館レターを発行することが有効であると考えられる。（研究資料 8_14）

今後はデジタル図書館への要望も参考に、さらなる利用者数の増加や利便性を高めていきたい。（研究資料 8_15）

4. デジタル図書の選定

(1) 選定図書の文化要素分類（文責：小倉）

これまでの研究と比較するために、購入図書の一部を文化要素で分類すると、右表のようになる。日本語の書籍は未だ幅広い分野にわたってデジタル化されていないため、前年度までのような「日本文化を伝えるためのデジタル図書」ではなく、日本語の「名作・文学」の図書が多くなっている。但し、それに伴いバイリンガルで出版されている図書数が増えている。また、右表には入っていないが、新たな試みとして小学校国語科デジタル教科書を購入し、現地で日本語を指導している教員を対象に貸し出しを検討している。

選定図書の文化要素分類

言語 4冊	食文化 0冊	被服文化 0冊
地形や気候 0冊	宗教や行事 3冊	伝記 16冊
歴史や伝統 6冊	科学技術・理科 12冊	名作・文学 138冊
生活習慣・遊び 25冊	バイリンガル 47冊	考え方 14冊

(2) デジタル図書選定一覧

今年度購入したデジタル図書は「研究資料 8_16」にまとめている。日本語の読解力が平日校と補習校の児童生徒で異なっており、平日校では研究図書を授業でも扱える一方、補習校では家庭に委ねる方法で図書を活用したため、両校で図書の選書目的が異なっている。そこで、選書一覧は「教員が授業などの指導で扱った図書（平日校）」と「家庭向けに選んだ図書（補習校）」として別々にまとめている。

デジタル図書の貸し出しは、「タブレット貸し出し(Kindle・Audible)」と「デジタル図書館」との2種類の方法を検証した。デジタル図書館は、すでに貸し出しの仕組みができているため、選書から始めればよいのに対し、タブレット貸し出しで行う場合は、学校での利用規定をはじめ、アプリや各種の設定を行う必要がある。教育目的に沿った選書という点では、デジタル図書館では各社の方針で収集された蔵書の中から図書を選ぶことになるが、タブレット貸し出しの場合は、目的に沿った文化的要素にターゲットをあてた図書などを収集することができる。

タブレットにデジタル図書をダウンロードして活用するにあたっては、特定の Kindle・Audible 図書を購入する方法と Unlimited のようなサービスを購入する方法、そして一般のタブレットを活用するのではなく、Kindle 専用の端末を活用する方法が考えられる。それぞれの機能について検討した詳細については、「研究資料 8_17」をご参照いただきたい。下記は教育実践を通して、検証された項目である。

・指定教科書の推薦図書や調べ学習のための図書など、指導目標に沿った図書を選択することができる。

- ・フラッシュカードを作成できるのは、X-Ray 機能が可能になっている図書のみ、音声読み上げができるのは Text-to-Speech 機能が可能になっている図書のみなど、図書を選択する際に「Product Details」の項目を確認しないと計画していた活動が行えない。

- 検討点をうけて、平日校2年生の研究では、特別登校日に実践を行い、授業用に整備されたタブレットを使用することで、不適切な「おすすめ図書」の提示がないようにした。また、平日校8年生の研究では、情報倫理の教育を行い、使用に関して規則作りをしてから、在宅学習で研究課題に取り組めるよう、環境づくりを行った。

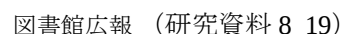
今年度の導入を検討したデジタル図書館は「Over Drive Japan・School e-Library・TRC-DL & LibrariE」の3社であり、各図書館の詳細は「研究資料 8_18」をご参照いただきたい。ここでは「Over Drive Japan」を選定した理由を4点列挙する。

- 1 点目は、Media Do (Over Drive Japan) は米国にて広く学校・教育現場で取り入れられている Over Drive 社を親会社にもち、殆どの機能やサービスを Media Do (Over Drive Japan) を通して受けることができるためである。

- 2 点目は、オーディオ機能の活用や Google Classroom と連携した活用ができるため、図書を読むだけでなく、より広い教育活動に発展できる将来性があるためである。

- 3点目は、費用が適切であり、蔵書数が費用に大きく反映しているためである。Media Do の取り扱うデジタル書籍（タイトル）数は、School e-Library よりは各段に少ないが、良書の上に厳選しており、School e-Library のように利用しない園児・児童・生徒に対して料金が発生することがない。更に、Media Do では、購入書籍とシステム運用にのみ費用が発生するため、生徒数が変動しても一定の費用で運用できる。

- 4 点目は、アクセス時間に制限がなく、米国の在外教育施設に向いている点である。例えば、導入を検討していた当初の School e-Library では、日本国内の利用者向けに時間を設定していたため、米国で授業のある時間や、起床している時間に利用することが難しかった。School e-Library では、この点を 2020 年 12 月に改善したようではある。アクセス時間に



制限がないデジタル図書館であれば、本校のように、日本に一時帰国している児童生徒がいる場合でも活用することができる。

② 利点と課題

本図書館の導入により、迅速な情報共有と日本語書籍の入手時間の短縮、郵送費用削減が可能になった。在外教育施設向けにデジタル図書をオンラインで配信しているプロバイダーはまだ少ないため、プロバイターにおいても、海外からの利用者への対応を模索している状況であり、意見交換の場を設けて改善をすすめているところである。デジタル図書館は蔵書の管理やメンテナンス費用が掛からない点が導入する際の利点ではあるが、図書の貸し出し回数や期間に制限があるなどの「デジタル図書館の特性」を検討してから導入することが重要である。尚、デジタル図書館の使用方法和利用規定は「研究資料 8_20・8_21」にまとめている。

③ 今後の展開

以前の交流校であり 2018 年に本研究に保護者会を通して参画した現地校 El Marino School から、下のような「Over Drive Japan」についての問い合わせがあった。Over Drive Japan には、本校のオリジナル教材をデータ化してデジタル図書として貸し出しをする機能もあり、これらを活用することで、本事業の本来の目的である「地域に向けた文化発信を目指す図書館」としての枠組づくりが今後も発展できる可能性がある。

現地校 El Marino School からのデジタル図書館に関する問い合わせ

- ・ Overdrive 社に決定した理由：金額・サービス
- ・ 選書の仕方：保護者へのアンケート回答・司書・学年別教員・国語専科の教員・幼稚園教諭・
- ・ 予算：キャンペーン・ターゲットの人数・書籍金額・貸出の種類（52 回または 24 か月・買い切り作品など）
- ・ 開館までの期間：6 月～11 月、パンデミック・DL 授業の開始とともに、デジタル図書の必要性を見直し、取り組み
- ・ 日本語でのやり取り：Madia Do（OverDrive Japan）電子図書館事業部を介して、取引を開始。
- ・ 保護者への案内：レターにて開始前の需要・要望などを調査する。

6. 2020 年度事業成果分析

本事業の初年度である 2017 年度に、カリフォルニア州立大学アーバイン校社会人大学の講師を招いて「近年の地域の図書館と図書の傾向」という講座を計画できないかと、関係者に相談したところ、近年の南カリフォルニアの小中高等学校の児童生徒は、教科書をはじめデジタル媒体で図書を読むことが多くなり、地域の図書館も利用者の減少に悩んでいるところだという説明をうけた。こうした中、今年度は、前年度までと図書の媒体を変えて、ニューノーマル後の家庭での普及が広がっている、デジタル図書を扱った研究となったわけだが、2020 年度は AG5 としてのデジタル図書の活用 に際して、留意すべき課題と発展的展望が明確化されたと言える。

まず留意すべき課題点として、これまでの選書方法であった「在外教育施設選定教科書に沿った推薦図書を収集する」という方法や、「地域に広めたい日本文化を紹介する図書を収集する」という方法での選書が難しいことがあげられる。2021 年現在、紙面で発行される日本語の図書に比べて、デジタル化されている日本語の図書はその数が限られているため、教育目的や事業展開を先に設定して図書を選書することに限界がみられたわけである。本研究が、単なる人気図書の収集ではなく学校の図書館として「日本文化発信拠点形成のプログラム開発」であるためには、紙面で発行される図書と同様の数と多様な分野の図書がデジタル化されることが必須である。一方、本事業を「日本語普及の拠点」として捉えるのであれば、その多くがデジタル化されている日本の名作や文学を活用した事業展開をしていくことが必要であろう。

次に、デジタル図書の有効性を検証するために、デジタル媒体の特性を生かしたプログラム開発ができるよう「音声の活用・書き込み機能の活用・図書データの活用・オンライン学習プラットフォームの活用」を計画し、各教員が全く新しい発想で図書活用や教科活動の創造を試みたが、更なる教育研究が必要であろう。デジタル図書の活用のみならず、ICT 機器の教科活用が、ややもすると学習ツールを変えただけの教育実践になることが多いように、「思考力・判断力・表現力を高める」(※)学校の図書館らしいデジタル図書活用を目指すことが不可欠である。つまり前述の計画が「音声を用いて日本文学を比較する活動・書き込み機能を活用してクリティカルな討論を行う活動・図書の分類データから読書意欲を引き出す活動」といった教育目標に対して、研究を実践していく必要がある。(※ 1956. B. Bloom. Critical Thinking Theory)

最後に、遠隔地に所在する補習校でデジタル図書館を導入することができた今年度は、「日本の図書を広める」という意義において、紙面の書籍を貸し出していた昨年度までと比較すると「利便性・経済性・発展性」という 3 点において非常に有効であった。2018 年度から本研究に参画してきた現地交流校 Campbell Hall School と、本年度は図書を活用した実践を行うことができなかったが、補習校への貸し出し方法をもとに、日本語と英語の両言語で書かれたバイリンガル図書やデジタル教科書を貸し出すことを検討していかれると理想的である。尚、Campbell Hall School で日本語を指導している教員からは、デジタル図書やデジタル教科書の活用に興味があるという意見をいただいている。また、以前の交流校である El Marino School から、本校が検証したデジタル図書館「One Drive Japan」について問い合わせがあったことにも大きな意義があり、今後は商品としてのデジタル図書館を紹介することに止まらず、教育実践も紹介できるようになれば、「思考力・判断力・表現力を高める教育」を目指している現地校との日本語の図書を介した交流も可能となり、研究の質が向上するとともに、「日本文化発信拠点としての学校図書館のプログラム開発」という事業の今後の発展を期待することができるだろう。(文責：小倉)

7. アンケート

活動1 デジタル読書音声アプリを活用し、読書意欲を高める活動

(文責：洞口)

【保護者アンケート内容】

- ① 普段、本を読むときは、日本語のものを 읽습니다か？英語のものを 읽습니다か？
- ② 普段、紙媒体の図書を読んでいますか？電子による図書を読んでいますか？
- ③ ご家庭で、読書アプリ Kindle を利用したことはありますか？また、今後も使ってみようと思いますか？
- ④ ご家庭で、読書音声アプリ Audible を利用したことはありますか？また、今後も使ってみようと思いますか？



活動2 デジタル図書の検索機能を活用し、多様な日図書語表現と豊かな語彙を活用した詩を発信する (文責：大濱)

【アンケート内容】

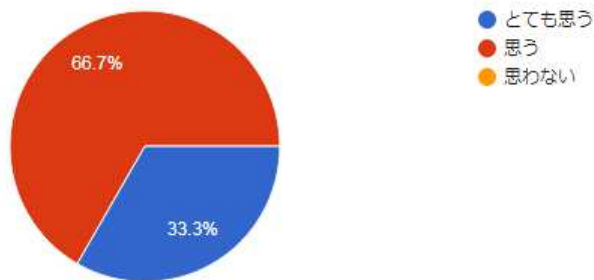
- ①～④は「とても思う・思う・思わない/よくできた・できた・できなかった」の3段階で回答・⑤～⑧は自由記述

- ① デジタル図書を活用して、より多くの図書を読むことができたと思いますか。
- ② デジタル図書を活用して、より多くの文章表現に触れることができたと思いますか。
- ③ デジタル図書のほうが、図書館（図書室）と比べて、たくさんの図書にふれることができたと思いますか。
- ④ デジタル図書のキーワード検索では、テーマに合う図書を見つけることができましたか。
- ⑤ どのようなキーワードで検索して図書を探しましたか。
- ⑥ どのような新しい表現を図書からみつけましたか。
- ⑦ 自分の詩のどこに新しい表現を用いることができましたか。
- ⑧ デジタル図書を使ってよかったと思うことを教えてください。

【アンケート結果】

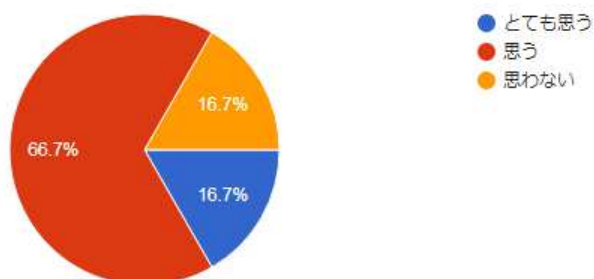
デジタル図書を活用して、より多くの本を読むことができましたか。

6 件の回答



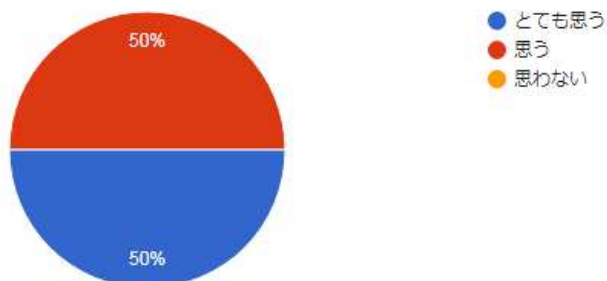
デジタル図書を活用して、より多くの文章表現にふれることができましたか。

6 件の回答



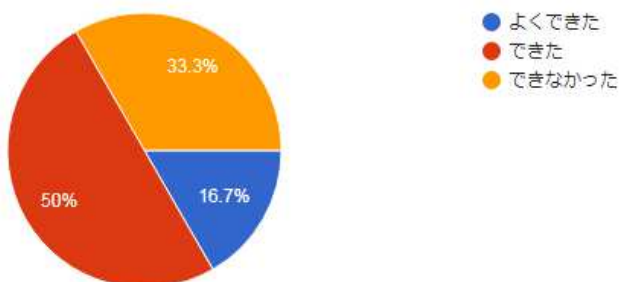
デジタル図書のほうが、図書館（図書室）より多くの本にふれることができましたか。

6 件の回答



デジタル図書のキーワード検索では、テーマに合う本を見つけることができましたか。

6 件の回答



⑤ キーワード検索では、どのようなキーワードで検索して本をさがしましたか（回答 6 件）

笑える, 笑顔になる, 心が温かくなる, 笑顔, 元気, 詩, ハッピー, 勇気, 笑い, 平和, 未来

⑥ どのような新しい文章表現を図書から見つけましたか。（回答 6 件）

同じ文末にそろえたり, リズムをつけたりと良い
 青い空, 宝物, 未来, 胸はって, 安心, 優しい, 生きる, 平和, 優しい心, 幸福
 心から笑う, 鳥の用に, 安心して
 自分の夢か彼らの夢か選ぶのは君だ, 笑顔は千万ドルの価値を生み出す
 できるかできないかじゃない やるんだよ, 元気が一番, 元気があれば何でもできる
 ごめんねっていうと, ごめんねっていう

※斜体は実際の詩に使われた語彙・表現である

⑦ 自分の詩のどこに新しい表現を用いることができましたか。（回答 6 件）

心満タン, 宝物, 安心して, 特別, すてきな『未来』に向かって, 生きてほしい, 未来
 むねはって, 自分らしさを大切に, みんな違ってみんないい

※斜体は実際の詩に使われた語彙・表現である

⑧ デジタル図書を使ってよかったと思うことを教えてください。（回答 6 件）

デジタル図書で読んだことのない本がたくさんあったこと。
 図書館にはない本に出会えたこと。
 いろいろな詩にできる言葉をたくさん見つけられたこと。（未来という言葉に関連する言葉あるめに役立った）
 図書館よりも本を見つけやすかった。
 今までより, たくさんの本を読めたこと。

活動 4 補習校児童・生徒の読書傾向の調査及び西大和学園デジタル図書館利用の分析（文責：田嶋）

【アンケート内容】すべての設問項目及びアンケートフォームは（研究資料 8_10）に記載している。

【アンケート結果】

(1) 第 1 回西大和学園デジタル図書館アンケートの結果

1 ヶ月に読む日本語の書籍数		1 ヶ月に読む英語の書籍数		1 日に読む日本語書籍の時間		1 日に読む英語書籍の時間	
平均冊数		平均冊数		平均時間(分)		平均時間(分)	
日本語話者	8.9	日本語話者	10.0	日本語話者	17.3	日本語話者	25.8
英語話者	3.1	英語話者	8.5	英語話者	8.4	英語話者	59.4
全体	7.4	全体	10.0	全体	14.9	全体	34.5

*日本語話者＝家庭内で主に日本語を話す者 *英語話者＝家庭内で主に英語を話す者

利用する書籍媒体		電子図書サービスの利用経験		図書館（学校図書館や公共図書館）の利用頻度		図書館（学校図書館や公共図書館）の利用頻度	
回答割合		回答割合		—コロナ前— 回答割合		—コロナ後— 回答割合	
紙	66 %	ある	62.4 %	月 1～2 回	42 %	ほとんどいらない	81 %
電子	34 %	ない	37.6 %	週 1～2 回	29 %	月 1～2 回	12 %
				ほとんどいらない	24 %	週 1～2 回	7 %
				週 3～4 回	4 %		
				ほとんど毎日	1 %		

どのような電子図書サービスを利用したことがあるか （複数選択あり）		電子図書サービスを利用する際の支払い可能金額 （実際に利用されている場合はその金額）		AGS 研究実施期間に、西大和学園デジタル図書館（無料） の利用希望	
回答割合		回答割合		回答割合	
Amazon kindle・kindle キッズモデル	34 %	0 円	36 %	ぜひ使いたい	57 %
絵本読み聞かせアプリ・サイト	30 %	500 円	20 %	あれば使いたい	41 %
書籍会社のアプリ・サイト	23 %	1000 円	11 %	使いたくない	2 %
Epic	23 %	10 円	10 %		
ベネッセまなびライブラリー	15 %	5 円	4 %		
マンガアプリサイト	7 %				
Amazon オーディオブック	6 %				
Raz-kids	6 %				

(2) 第2回西大和学園デジタル図書館アンケートの結果

日本語書籍の読書をする曜日・時期（複数選択あり） 英語書籍の読書をする曜日・時期（複数選択あり）

回答割合	回答割合
長期休暇（夏・冬休み等） 64 %	平日水曜日 73 %
平日水曜日 51 %	平日月曜日 71 %
平日月曜日 49 %	平日火曜日 71 %
平日金曜日 48 %	平日木曜日 71 %
週末日曜日 48 %	平日金曜日 70 %
平日木曜日 46 %	長期休暇（夏・冬休み等） 45 %
平日火曜日 44 %	週末日曜日 40 %
週末土曜日 40 %	祝日（ホリデー等） 38 %
祝日（ホリデー等） 38 %	週末土曜日 31 %

西大和学園デジタル図書館の貸出利用

回答割合
借りた 41 %
借りていない 58 %

日本語の読書量（貸出利用者のみ）

回答割合
少し増えた 48 %
変わらない 41 %
大いに増えた 10 %

英語の読書量（貸出利用者のみ）

回答割合
変わらない 85 %
少し増えた 3 %
大いに増えた 3 %
少し減った 3 %

今後も西大和学園デジタル図書館を利用していきたいか
（貸出利用者のみ）

回答割合
はい 95 %
いいえ 0 %
その他 5 %

西大和学園デジタル図書館を利用しなかった理由
（貸出未利用者のみ・複数選択あり）

回答割合
時間がない 41 %
興味を示さない 32 %
電子書籍を読ませたくない 15 %
ID/パスワードが分からない 9 %
サイトの使い方が分かりにくい 9 %

左記が解決された場合、西大和学園デジタル図書館を今後
利用するか（貸出未利用者のみ）

回答割合
はい 91 %
いいえ 3 %
検討中 3 %
その他 3 %

西大和学園デジタル図書館に希望する本の対象年齢層
（複数選択あり）

回答割合
小学校低学年用 58 %
小学校中学年用 56 %
小学校高学年用 53 %
中学生用 37 %
幼稚園用 26 %
大人用 20 %
高校生用 18 %

8. 研究資料

※下記のファイルは 2020 年度 AG5 西大和学園カリフォルニア校/8 研究資料に保存してある

	資料タイトル
1	青空図書館実施計画（2019 年度までの研究図書の貸し出し）
2	青空図書館おすすめの本紹介カード作品
3	活動 1 授業収録ビデオ https://drive.google.com/file/d/1fSNfHGvIb7pQa-fl5_wvQV83m7JP90-B/view?usp=sharing
4	活動 2 デジタル図書を活用して作成した詩の事例
5	活動 3 デジタル図書を活用しない実践（比較検証）
6	活動 3 デジタル図書を活用しない実践（ゼブラ考察発表）
7	活動 3 デジタル図書を活用しない実践（ゼブラ考察文）
8	活動 3 タブレット・kindle を使った感想
9	活動 3 写真・ビデオフォルダ（Kindle マーカー機能・メモ機能・機器実演・ショートショート授業）
10	活動 4 デジタル図書館アンケートフォーム 第 1 回アンケート https://forms.gle/d41GTrCQrB5JcE8X7 第 2 回アンケート https://forms.gle/yEkTvXrqHYuvosWW6
11	活動 4 デジタル図書館利用の理由
12	活動 4 デジタル図書館に希望する本のジャンル
13	活動 4 デジタル図書館に希望する著者名・タイトル
14	活動 4 デジタル図書館の利用者数・貸出数の推移
15	活動 4 デジタル図書館への要望
16	選書リスト（平日校・補習校）
17	タブレット貸し出しによる実践の検討（Kindle・Audible 活用）
18	デジタル図書館比較
19	デジタル図書館広報
20	デジタル図書館使用方法
21	デジタル図書館利用規約

9. 2020 年度研究員一覧

氏 名	所属・職名	担当
小倉 佳恵	校長(平日校)・教頭(アーバイン校舎)	総括(報告書・評価)
荒牧 理江	広報・渉外部	AG5コーディネーター・図書選定委員会
白上 素子	第3学年担任(平)・教頭(ロミタ校舎)	研究員・図書選定委員会
阿部 晋治	第1学年担任(平)・教頭(パロスバーデス校舎)	研究員
洞口 絵美	第2学年担任(平補)	研究員
大濱 千枝	第4学年担任(平補)	研究員
中西 陵	第5学年担任(平補)	研究員
土井 美穂子	教頭(平日校)・第6学年担任(平)・総合(補)	研究員
杉本奈都子	中学部国語科(平日校)・第7学年担任(補)	研究員
藤本 翔太	第7学年担任/理科(平)・理科(補)	研究員
小島 美由貴	第8学年担任/数学科(平)・第4学年担任(補)	研究員
美間 優香	第9学年担任/外国語科(平)	研究員
田嶋 芽薫美	第9学年担任・中学部主任(補)・補習校図書係	研究員・図書選定委員会
田野瀬 夏子	専務理事・補習校園長	図書選定委員会・デジタル図書館総括
西川 勝行	学園長・補習校校長	図書選定委員会・会計総括
西大和学園カリフォルニア校 2458 Lomita Blvd. Lomita CA 90717 U.S.A. (310) 325-7040 mail@nacus.org		